４　履修案内
１－２　専攻科目

（2020 年度入学者から適用）

人間科学部（人間科学科）履修案内

（2020年度入学者から適用）

1　教育目標

人間科学部は，「人間の心身と人間社会に対する多角的・総合的思考を涵養し，人間環境の質の向上と，健康で心豊かな生活を保障する社会の確立に貢献できる人材の育成」を教育研究上の目的としています。

具体的には卒業時に以下のような人材であることを期待しています。

１．人間や社会及び自然について豊かな教養を身につけ，さらに国際的な視野に立って物事を考えることができる能力を身につけている。

２．自己の心身をよく認識し，それをさまざまな形で表現し，他者に伝えるコミュニケーション能力を身につけている。

３．人間を「こころ」と「からだ」の両面から理解するとともに，人間が形成する「社会」の仕組みについて客観的な認識ができ，それらを多角的・総合的に捉える思考力を身につけている。

４．「こころ」，「からだ」及び「社会」をめぐる諸問題を主体的に発見し，その具体的な解決に向けてさまざまな提案ができる発信力を身につけている。

５．自己と他者とのつながりを感じ，常に社会的弱者へ温かいまなざしが向けられる姿勢（又は至誠）をもち，健康で心豊かな社会の確立のために，他者と協力しながら問題解決に当たる行動力を有している。

2　カリキュラムの特色

人間科学はさまざまな分野の学問から成り立っている学際的な領域です。人間科学部のカリキュラムは，そうした学際性を強く意識したカリキュラム体系になっています。

１．１学部１学科とし，そのもとに心理発達，スポーツ健康及び人間社会の３コースを置いている。学生は多角的・総合的思考ができるように，コースの垣根を越えて，どのコースの開講科目も履修できる。

２．全学共通の教養教育及び外国語科目と人間科学科の専攻科目とを有機的に連関させることにより，豊かな教養と国際的な視野に立った思考力及び専門的な洞察力が相乗的に身に付くように編成されている。

３．大学における初年次教育である１年次前学期の「FYS」に続き，１年次後学期に「人間科学基礎ゼミナール」を配置し，教養教育から専門教育へのスムーズな移行を促進している。

４．人間科学科の専攻科目については，１年次必修の「人間科学概論」や「情報処理Ⅰ・Ⅱ」などの基礎科目から基幹科目さらに展開科目へと年次進行にしたがって体系的に学ぶことができるように配置されている。

５．個人の表現能力，発信力及びコミュニケーション能力を高めるため，本学科では少人数双方向教育を重視している。そのために１年次の「FYS」，「人間科学基礎ゼミナール」に引き続き，２年次に「人間科学専門ゼミナールⅠ」及び３年次に「人間科学専門ゼミナールⅡ」を，４年次に「卒業研究」を必修科目としている。特に「卒業研究」では，専門教育の集大成として，自らが設定した卒業研究の企画及び問題解決のための方法，結果の分析などが求められる。

６．卒業後，大学院において公認心理師や臨床心理士の資格取得を希望するもののために，必要な科目を設置している。

■基礎科目

基礎科目は，大学教育への導入と２年次以降の＜基幹科目＞＜展開科目＞への導入として配置されている科目群ですので１年次に履修しなければなりません。２年次以降は，専門教育を体系的に学修するうえで必要な基本的思考様式と基礎的な知識を修得することが目的です。以下に，必修科目について紹介します。

○「人間科学概論」（第１セメスター）（必修：２単位）

人間科学概論は，「人間科学とは何か」について，「こころ」，「からだ」，「社会」の視点から概説する。本科目はオムニバス形式の授業で，「人間科学部において何をどのように学ぶのか」の指針となります。また「人間科学概論」とは，同じ＜基礎科目＞に配置している選択必修科目の「人間形成論」「人間関係論」を両方履修することにより，人間科学部での学修内容を明確にし，総合的・学際的な理解への足がかりとなります。

○「情報処理Ⅰ」（第１セメスター）／「情報処理Ⅱ」（第２セメスター）（必修：各２単位）
　５０名程度の習熟度別クラス編成で授業が行われます。情報処理については，すでに高等学校で学んできているはずですが，得意な人と不得意な人がいるかも知れません。今後，パソコンの操作を含む情報処理の技能はますます重要になってきますので，積極的に取り組む必要があります。ワード，エクセル，インターネット関連が中心となりますが，著作権などについても学びます。

○「人間科学基礎ゼミナール」（第２セメスター）（必修：２単位）
　学問への取り組み姿勢，専門教育での学修方法などについて学ぶ導入教育の授業です。少人数のクラス編成で，「読む」，「書く」，「話す」，「聞く」，「議論する」などの機会を多くもち，自己表現力と対人能力を向上させることを目指します。この科目は，第２セメスター後半でのコース選択や「人間科学専門ゼミナールⅠ」（２年次配当）の選択に際しての手助けとなります。また，大学生活全般に関して自由に相談できる場でもあります。履修希望者が多いゼミでは，何らかの方法で選考が行われます。

■基幹科目
　基幹科目は，＜基礎科目＞の理解のうえに立ち，より専門性の高い＜展開科目＞を履修するにあたってそれぞれの学問分野の基本的な知識をより具体的に理解することを目的とした科目群です。主に２年次に配当されていますが，一部，１年次に配当されている科目もありますので注意してください。
　なお，「心理発達コース」を選択した人においては，「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法」「心理学研究法特別講義」（ともに２年次配当）は必修科目となります。「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では，少人数のグループに分かれて，特定のテーマのもとに，基礎的な心理学実験（心理検査）を行い，人間の心理特性や研究方法について体験的に学びます。「心理学研究法」や「心理学研究法特別講義」では，心理学の研究を進めるに際しての研究の組み立て方，測定法又は検査法などの基礎的な研究方法，データ処理法などについて学びます。これらの科目はお互いに補完しあうものです。
　「スポーツ健康コース」を選択した人においては，「ヒューマンマインド学」が必修科目となります。
　「人間社会コース」を選択した人においては，「社会調査論Ⅰ・Ⅱ」が必修科目となります。

■展開科目
　展開科目は，［専攻科目］の中で，比較的，応用的かつ実践的な科目を主に＜展開科目＞として，２年次・３年次・４年次に配当されています。

○実験・実習，フィールドワークを含む科目
　＜基幹科目＞の「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」や「フィールドワーク入門Ⅰ・Ⅱ」もそうですが，＜展開科目＞ではフィールドワークを行う「社会調査法（含む実習）ＡⅠ・ＡⅡ，ＢⅠ・ＢⅡ」など，実験・実習，フィールドワークを含む科目を開講しています。実験・実習，フィールドワークを通して，解決すべき問題について，仮説の立て方，実証方法，データ処理を含む分析方法等を修得することがねらいです。その際，1年次に修得した＜基礎科目＞の「情報処理Ⅰ・Ⅱ」のスキルが役立ちます。

○「キャリア特別講義」と「人間科学特別講義」
　担当教員による講義に，必要に応じて学外又は学内の講師による講演を加えて行われる講義科目です。講演の前後の週に，講演内容に関連する予習と復習，あるいはディスカッションなどを行います。「キャリア特別講義」では，学問，スポーツ，そのほか各界で活躍中の，キャリアをもったゲストの講演を通して，在学中の学びや将来に対する指針を得ることが期待されます。また，「人間科学特別講義」では，地元横浜のNPOや，実務家の方々をゲスト講師に迎えて，地域社会の課題とその解決について考えます。人間科学の奥行きの深さや楽しさを体感することが期待されます。

○「外国語文献講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
　外国語（主に英語）のテキストや雑誌などを和訳しながら読んでいきます。少人数のクラス編成とし，場合によってはディスカッションなども行います。

■総合演習
　「人間科学専門ゼミナールⅠ」（２年次配当），「人間科学専門ゼミナールⅡ」（３年次配当），及び「卒業研究」（４年次配当）で構成されています。これら３つの科目は必修科目です。

○「人間科学専門ゼミナールⅠ」と「人間科学専門ゼミナールⅡ」（必修：通年４単位）

１年次で＜基礎科目＞や＜共通教養科目＞を学びながら，自分がどのような分野に関心があり，自分がどのような道に進みたいのかを考えてください。そして自分の関心に近い分野の研究テーマを掲げている教員のゼミナールに所属するのが一般的です。

「人間科学専門ゼミナールⅠ」と「人間科学専門ゼミナールⅡ」は，原則として同じ教員の指導のもとで関心のあるテーマについて研究を行うための場です。そこでは教員及び他のゼミ生と一緒に，研究テーマについて問題意識を深めていくとともに，さまざまな学修上及び学生生活上の問題などについても話し合う機会がもたれます。多くのゼミナールで合宿研修等が実施される予定です。なお，履修希望者が多いゼミでは，何らかの方法で選考が行われます。

○「卒業研究」（必修：通年４単位）

「卒業研究」では「人間科学専門ゼミナールⅠ」と「人間科学専門ゼミナールⅡ」で追究した研究テーマについてさらに深めていきます。「卒業研究」は，４年間の学びの集大成として，研究の満足感と成果を得ることができますので，専門ゼミナールⅠ・専門ゼミナールⅡ・卒業研究を段階的に履修してください。なお，「卒業研究」の方針については，各担当者のシラバスを参照してください。

■共通教養科目

横浜キャンパス全学部共通に開講する[共通教養科目]は，幅広い教養と問題解決に積極的にチャレンジする知の技法を修得することを目的として，＜共通基盤科目＞，＜共通テーマ科目＞から編成されています。人間科学部では，卒業要件単位として，[共通教養科目]を３２単位以上修得しなければなりません。

○「初年次ゼミナール(FYS)」（第１セメスター）（必修：２単位）

みなさんが大学生活へスムーズに適応できるように，全学共通のテキストを用いて，大学生活に必要なスキル（student skill）と学修に必要なスキル（study skill）の修得を中心として，少人数で行うゼミナール形式の科目です。履修するクラスは授業開始前に指定されます。なお，前学期に単位を修得できなかった場合は，後学期に開講される再履修クラスの「FYS」を受講しなければなりません。もし再履修クラスの「FYS」が集中講義形式になる場合には，かなりハードなスケジュールになりますので，前学期にきちんと履修してください。

○外国語科目（英語）（必修：８単位）

「英語Ⅰ(Listening)／英語Ⅰ(Speaking)」（第１セメスター）
「英語Ⅱ(Listening)／英語Ⅱ(Speaking)」（第２セメスター）
「英語Ⅰ(Reading)／英語Ⅰ(Writing)」（第３セメスター）
「英語Ⅱ(Reading)／英語Ⅱ(Writing)」（第４セメスター）

本学では意欲的に外国語を学べるように複数の外国語（英語，ドイツ語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語，韓国語）を開講していますが，人間科学部では英語（合計８単位）が必修です。今後，コミュニケーションツールとしての英語はますます重要性を増していきます。国際スポーツイベントのサービスなどでも英語は今や必須です。なお，国際的な舞台で活躍するためにも，ほかの外国語の修得にも積極的にチャレンジしてください。詳しくは，外国語科目の履修案内のページを熟読してください。

○共通基盤科目（「FYS」・「外国語科目」以外の科目）

共通基盤科目は「初年次ゼミナール(FYS)」「外国語科目」のほか，教養基礎演習，人文の分野，社会の分野，自然の分野，人間形成の分野から構成されており，社会人として幅広い知識と教養を身につけるためにさまざまな授業が開講されています。なお，人間科学部では，人文・社会・自然の各分野から４単位以上の修得が必須であり，かつ，人間形成の分野の「健康科学とスポーツⅠ・Ⅱ」（各１単位）が必修科目となっています。様々な分野の科目を履修し，幅広い分野にわたる教養や基礎的学力を身に付けるとともに，からだを動かして，心身ともにしなやかな人間を目指して欲しいと思います。

○共通テーマ科目

共通テーマ科目は，現代の諸課題を扱う既存の学問分野を越境する性格をもつ科目で，現代社会における市民の生存，生活，活動にかかわる諸課題を取上げ，既存の学問分野に収まりきらない学際的な科目です。なお，人間科学部では，「共通テーマ科目」について２単位の修得が必須です。

３　履修要領

履修とは，時間割を確認のうえ，みなさん自身が授業科目を決定し，登録（届け出）することです。人間科学部では，「こころ」，「からだ」，「社会」の各分野の垣根をできるだけ低くし，分野を超えて自由に科目を選択し履修することができます。

しかし，ただ漫然と履修科目を選択してはなりません。「こころ」，「からだ」，「社会」の各分野を，みなさん自身の中で融合させ総合することが求められます。人間科学部ではそのための場所と材料を準備してお手伝いはしますが，主役はみなさん自身です。このことは常に意識しておく必要があります。以下に，履修にあたってのポイントをいくつか記します。

(1)　先ず，必ず修得しなければならない必修科目を履修する必要があります。第１セメスターでは，［共通教養科目］の「FYS」，「英語Ⅰ(Listening)／英語Ⅰ(Speaking)」及び「健康科学とスポーツⅠ」，また，［専攻科目］の「人間科学概論」及び「情報処理Ⅰ」を履修します。第２セメスターでは，［共通教養科目］の「英語Ⅱ(Listening)／英語Ⅱ(Speaking)」及び「健康科学とスポーツⅡ」，また［専攻科目］の「人間科学基礎ゼミナール」及び「情報処理Ⅱ」を履修します。クラス（担当者）が予め決まっている科目もありますし，クラス（担当者）を決定する方法が別な科目もあるため，ガイダンスや学内の掲示板・ウェブステーションや『授業時間割表』に特に留意してください。

(2)　次に，［専攻科目］の＜基礎科目＞にある選択必修科目を履修します。＜基礎科目＞の卒業要件を満たすためには全ての科目を履修する必要はありませんが，第１セメスターの「人間形成論」と「人間関係論」はどちらか一方を必ず修得しなければなりません。（できれば両方の科目を履修することが望まれます。）

また，第２セメスターでは，５つの選択必修科目「健康学概論」「心理学概論」「教育学概論」「社会学概論」「社会福祉学概論」の中から２科目を履修し修得しなければなりません。

(3)　そのほかに１年次から，自分の興味・関心，及び卒業後の進路等を常に意識し，〔卒業要件〕を踏まえながら［共通教養科目］や［専攻科目］からバランスよく履修科目の選択をするとよいでしょう。

尚，［共通教養科目］にある各分野の科目は，キャリア形成科目を除き全年次対象に配当されていますが，３，４年次は［専攻科目］の学修や就職活動でかなり忙しくなりますので，できれば１，２年次の間に履修することが望ましいです。また，できるだけ幅広く異なった分野の科目を選択することをおすすめします。

(4)　２年次の必修科目は，第３セメスターでは［共通教養科目］の「英語Ⅰ(Reading)／英語Ⅰ(Writing)」，第４セメスターでは，「英語Ⅱ(Reading)／英語Ⅱ(Writing)」です。また，［専攻科目］については「人間科学専門ゼミナールⅠ」が必修科目です。

「人間科学専門ゼミナールⅠ」の選択に際しては，１年次の１０月に各教員のゼミナールの紹介を兼ねた『ゼミナール要項』が配付され，１１月頃に何度かゼミナールの説明会が開催されます。その『ゼミナール要項』を熟読し，また必ず説明会に参加して希望のゼミナールを選択することが必要になります。申込み・選考は，１年次の１２月に行われる予定です。応募者が多いゼミナールでは何らかの方法で選考が行われることがあります。もし選考にもれた場合には，二次・三次募集を行う他のゼミナールに再度応募する必要がありますので，二次募集以降に関する情報を学内の掲示板やウェブステーションで確認してください。

「人間科学専門ゼミナールⅠ」（２年次）と「人間科学専門ゼミナールⅡ」（３年次）と「卒業研究」（４年次）は必修科目です。これらを履修しないと卒業できないので，期間内にきちんと申し込みをしてください。

「人間科学専門ゼミナールⅡ」（３年次）と「卒業研究」（４年次）は原則として「人間科学専門ゼミナールⅠ」（２年次）と同一教員のゼミナールに所属してください。特別な理由で変更を希望する場合は，受け入れ先のゼミナールの担当教員の承諾を得るとともに，元のゼミナールの担当教員とも話し合ってください。各コース主任の許可を得た後，変更を行うことが可能となります。もし困った場合には，教務課の窓口で相談してください。

(5)　人間科学部の特色の一つとして，実験・実習，フィールドワークを含む科目があります。人間科学部は実践的な学修を重視する学部です。高校時代までに身につけた机に向かっての勉強も大事ですが，行動と実践を伴う科目もぜひ積極的に履修してください。

(6)　４年次に開講する「卒業研究」（必修科目）は学生のみなさんが，専門教育の集大成として履修します。特に大学院（他大学を含め）への進学を考えている人は，将来を見据えて履修に臨んでください。

４　履修要件

〔履修要件〕とは，授業科目を履修するにあたっての決まりごとのことです。「教育課程表」の脚注ページにある〔履修要件〕を必ず確認してください。

５　コース制

人間科学部では，「心理発達コース」，「スポーツ健康コース」，「人間社会コース」のいずれかのコースを選択し，登録しなければなりません。コースの選択にあたっては，１年次４月のガイダンス及び１１月に行われる「人間科学専門ゼミナールⅠ」の説明会を参考にしてください。１年次から卒業後の進路を含め，自分の関心がどこにあるのかをできるだけ意識化して固めておくことが重要です。

なお，コースの登録と，「人間科学専門ゼミナールⅠ」の決定とは密接に関係します。「人間科学専門ゼミナールⅠ」の選択にあたっては，多くの場合，直前に登録を完了したコースに所属する担当教員が開講するゼミナールを履修することになると思います。

また，特別な事情が生じた場合に限り，３年次及び４年次当初に，コース変更が認められます。（「教育課程表」の脚注ページにある〔コース制〕を必ず確認してください。）

（人間科学部の構成）

人間科学部－人間科学科
- 心理発達コース
- スポーツ健康コース
- 人間社会コース

■心理発達コース

心理発達コースでは，心理・発達・教育の視点から，人間のこころの発達や特性について学びます。まず心身両面から自己を再確認し，それを他者理解，対人能力の向上へとつなげていきます。基礎的学修に加え，実験・実習を組み入れ，さらに犯罪被害者や災害被害者の心理，高齢者や障害者の心理，健康心理学など，応用的な学修にも力を入れています。卒業後，公認心理師や臨床心理士の資格取得を目指す方のために必要な専門科目や演習，実習が設置されています。なお，心理発達コースを選択した場合，「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」と「心理学研究法」，「心理学研究法特別講義」の単位を必ず修得する必要があるので注意してください。また，「知覚・認知心理学」と「感覚知覚心理学」，「生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ」，及び「臨床心理学概論」と「心理的アセスメント」は，履修することが望ましい授業科目です。

■スポーツ健康コース

スポーツ健康コースでは，「健康に生きる力」「人を魅(ひ)きつけ，導く力」「スポーツ文化を支え，発信する力」の３つの力を身に付けることを目指し，それぞれの力に即した科目を配置しています。

「健康に生きる力」: 健康の基本概念やその知識を活用した健康管理などについて体験的に学修したり，身体構造の理解やテーピングやリハビリテーションなどの実践によりからだの機能にかかわる知識の習熟を図ったりします。

「人を魅きつけ，導く力」: スポーツ実践者として道徳・モラルや倫理を再考し，人を導く魅力を身に付けそれを伝える実践力を備えます。また，論理的思考とその活用を体験的に学修し，人を魅きつけ導く力を身に付けます。

「スポーツ文化を支え，発信する力」: スポーツの本質や社会におけるスポーツの位置づけを学修し，スポーツを多角的に捉えられるようにします。また，スポーツを振興する立場からスポーツの“産”と“官”の両面を理解したり，グローバル化に対応する実践的な言語力を身に付けます。なお，スポーツ健康コースを選択した場合，「ヒューマンマインド学」の単位を必ず修得する必要があるので注意してください。

■人間社会コース

人間社会コースでは，「こころ」と「からだ」をもつ人間が形成する「社会」という軸に焦点をおき，「社会的存在」としての「人間」の側面に着眼して学修していきます。「人間」と「社会」の相互形成や多様化していく現代社会及び地域・国際社会についての構造や実態を理解するとともに，調査実習を通して地域社会を調査し，分析することにも重点をおき，人と社会との関わりを創造し，発信する力を養成します。

なお，人間社会コースを選択した場合，「社会調査論Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得する必要があります。

６　履修に関する年間スケジュール

１年次　　４月　各種ガイダンス
　　履修科目登録（第１・２セメスター科目の登録）
　　６月　「人間科学基礎ゼミナール」説明会・履修申込み・決定（二次募集・決定）
　　９月　履修科目登録（第２セメスター科目の追加・削除・変更）
　　１０月　「人間科学専門ゼミナールⅠ」募集要項配付
　　１１月　「人間科学専門ゼミナールⅠ」説明会
　１２月～１月　「人間科学専門ゼミナールⅠ」履修申込み・決定
　　同　　二次募集・決定
２年次　　４月　コース登録

７　学外単位認定制度

〔学外単位認定制度〕とは，①海外語学研修のプログラムを修了した，②各種の検定試験に合格した，③横浜市内の他大学の授業科目の単位を修得した場合に，人間科学部のカリキュラムに応じた単位として認定する制度です。「教育課程表」の脚注ページにある〔学外単位認定制度〕を必ず確認してください。また，詳細は「学則及び諸規程」にある各制度に関する規程にて紹介されています。

８　卒業要件

〔卒業要件〕とは，卒業するために必要な決まりごとのことです。**この決まりごとを満たさなければ卒業することはできません。**「教育課程表」の脚注ページにある〔卒業要件〕を必ず確認してください。

９　履修系統図

人間科学部は学部の教育方針として「１２の力」を策定し，これに基づきカリキュラムの検証を行い，履修系統図を作成しました。

これは，人間科学部の教育方針（身につく力）【対人関係力・自己管理力・批判的思考力】を共通の目標とし，３つのコースがそれぞれ３つの教育方針を策定し，当該科目を履修することによって“どんな力が身に付くか”という視点で図化したものです。「教育課程表」と比較しながら，みなさんの履修計画に役立ててください。（次頁）

≪人間科学部人間科学科　履修系統図≫

コース		身につく力	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
人間科学部	学部共通	対人関係力 自己管理力 批判的思考力	人間科学概論	健康学概論						
			人間形成論	心理学概論						
			人間関係論	教育学概論						
				社会学概論						
				社会福祉学概論						
			情報処理Ⅰ	情報処理Ⅱ						
				人間科学基礎ゼミナール	人間科学専門ゼミナールⅠ		人間科学専門ゼミナールⅡ		卒業研究	
			人間科学特別講義		プログラミング演習	障害者福祉論	高齢者福祉論	地域福祉論	外国語文献講読Ⅲ	
					児童福祉論	キャリア特別講義	外国語文献講読Ⅰ	外国語文献講読Ⅱ		
					レジャーと産業					
	心理発達	認知と行動を理解する力			心理学実験Ⅰ	心理学実験Ⅱ	神経・生理心理学			
			人体の構造と機能及び疾病		知覚・認知心理学	感覚知覚心理学	福祉心理学	色彩心理学		
						心理学研究法特別講義				
					心理学研究法	心理学統計法Ⅱ				
				精神疾患とその治療	心理学統計法Ⅰ	学習・言語心理学				
		成長発達を支援する力		ライフデザインの心理学	生涯発達心理学Ⅰ	生涯発達心理学Ⅱ		青年心理学		
				発達心理学	教育・学校心理学	臨床発達心理学				
					司法・犯罪心理学	ジェンダー心理学		被害者心理学		
						心理学的支援法	心理療法			
					ボランティア学習論	教育人間学	教育哲学			
					異文化間教育学	教育社会学				
						障害者・障害児心理学				
		豊かな人間関係を築く力	公認心理師の職責	関係行政論	臨床心理学概論	心理的アセスメント	産業・組織心理学			
					感情・人格心理学					
					応用社会心理学	社会・集団・家族心理学	家族心理学			
					環境心理学	健康・医療心理学	コニュニティー心理学			
							組織心理学			
					心理演習Ⅰ	心理演習Ⅱ	心理実習Ⅰ	心理実習Ⅱ		
	人間社会	社会の構造と実態を理解する力			現代社会論Ⅰ	現代社会論Ⅱ	異文化社会論B	異文化社会論A		
					国際社会論A	現代社会心理学	地域情報論	国際社会論B		
					ジェンダー研究	現代文化人類学		法女性学		
					家族社会学	世界地誌				
					形質人類学					
					都市空間と社会					
		地域社会を調査し、分析する力	社会調査論Ⅰ	社会調査論Ⅱ	データ分析法Ⅰ	データ分析法Ⅱ	社会調査法（含む実習）ＡⅠ	社会調査法（含む実習）ＡⅡ		
					社会統計学Ⅰ	社会統計学Ⅱ	社会調査法（含む実習）ＢⅠ	社会調査法（含む実習）ＢⅡ		
					人口地理学	景観地理学	地域社会学	地理情報システム論		
					横浜学Ⅰ	横浜学Ⅱ	産業地理学			
		人と社会との関わりを創造し、発信する力		フィールドワーク入門Ⅰ		フィールドワーク入門Ⅱ	市民社会論			
						地域社会貢献論	環境計画論	地域防災論		
						環境社会論		高齢社会論		
								気象学		
								現代メディア論		
	スポーツ健康	健康に生きる力			人体生理学	解剖学	機能解剖学実習	トレーナー実習		
						バイオメカニクス				
					栄養管理学	スポーツ医学	睡眠と生体リズム	健康システム管理論		
			（健康科学とスポーツⅠ）	（健康科学とスポーツⅡ）	学校保健	運動処方論	トレーニング実技			
						公衆衛生学				
						救急法				
		人を魅きつけ、導く力			ロールモデル論	スポーツ心理学	保健体育専門教養Ⅰ	保健体育専門教養Ⅱ		
					ヒューマンマインド学		保健体育指導実践Ⅰ	保健体育指導実践Ⅱ		
								コーチング論	コーチング心理学	
					統計と調査	身体計測と情報処理				
							身体科学実験実習	身体運動の計算科学とシミュレーション		
		スポーツ文化を支え、発信する力	スポーツ哲学	スポーツ社会学	スポーツ実践Ⅰ	スポーツ実践Ⅱ	スポーツ実践Ⅲ	スポーツ実践Ⅳ		
			ライフアカデミックスキル	スポーツ実技種目（球技①）	生涯スポーツ論					
			スポーツ実技種目（球技①）	スポーツ実技種目（球技②）	野外実習（サマー）	野外実習（ウインター）	スポーツの行政と公共政策	実践英語		
			スポーツ実技種目（球技②）		スポーツ実技種目（球技③）	スポーツ実技種目（球技③）		スポーツと経済		
					スポーツ実技種目（器械運動）	スポーツ実技種目（器械運動）		スポーツ文化		
					スポーツ実技種目（陸上競技）	スポーツ実技種目（陸上競技）				
					スポーツ実技種目（水泳）	スポーツ実技種目（水泳）				
					スポーツ実技種目（武道）	スポーツ実技種目（武道）				
					スポーツ実技種目（ダンス）	スポーツ実技種目（ダンス）				
					スポーツ産業論	スポーツマネジメント				

10 履修モデル （履修モデルは参考であり，必ずしもこれに従わなければならないわけではありません）

■モデルⅠ（心理発達コース：心理福祉）

将来心理職や福祉職を希望する人や大学院の進学を目指す人のための履修モデルです。人間の多種多様な心の問題に対して、「臨床心理士」、「学校心理士」、「家族心理士」をはじめとする各種心理士の育成は急務です（ただしこれらの資格を取得するには 大学院へ進学することが必要です）。また，人災，天災後による被害者のこころのケアのためにも各種心理士への社会的ニーズは高まっています。在学中の関係単位取得は，これら専門職へのステップとなります。

基礎科目	・人間科学概論　・人間形成論　・人間関係論　・（健康学概論）　・心理学概論　・教育学概論 ・（社会学概論）　・社会福祉学概論　・人間科学基礎ゼミナール　・情報処理Ⅰ・Ⅱ
基幹科目	・知覚・認知心理学　・学習・言語心理学　・臨床心理学概論　・心理的アセスメント ・感情・人格心理学　・司法・犯罪心理学　・心理学実験Ⅰ・Ⅱ　・心理学研究法　・心理学統計法Ⅰ・Ⅱ ・スポーツ心理学　・公衆衛生学　・人口地理学　・現代社会心理学　・家族社会学
展開科目	・神経・生理心理学　・社会・集団・家族心理学　・発達心理学　・障害者・障害児心理学　・環境心理学 ・色彩心理学　・教育・学校心理学　・青年心理学　・福祉心理学　・心理学的支援法　・心理療法 ・健康・医療心理学　・ジェンダー心理学　・コミュニティー心理学　・産業・組織心理学 ・被害者心理学　・人体の構造と機能及び疾病　・精神疾患とその治療　・ボランティア学習論 ・プログラミング演習　・人間科学特別講義　・高齢社会論　・児童福祉論　・高齢者福祉論 ・障害者福祉論　・地域福祉論
総合演習	・人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ　・卒業研究

■モデルⅡ（心理発達コース：人間発達）

人間の発達を，人間のこころや身体、社会環境と関連させながら総合的に理解し，将来，多様な領域で幅広く人間に関わる職業を目指す人の履修モデルです。このモデルでは，将来の行政職や企業の総合職、研究職、社会科教諭などの育成を目指します。

基礎科目	・人間科学概論　・（人間形成論）　・人間関係論　・（健康学概論）　・心理学概論　・教育学概論 ・（社会学概論）　・社会福祉学概論　・人間科学基礎ゼミナール　・情報処理Ⅰ・Ⅱ
基幹科目	・生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ　・感覚知覚心理学　・心理学実験Ⅰ・Ⅱ　・知覚・認知心理学 ・学習・言語心理学　・心理学研究法　・心理学研究法特別講義　・心理学統計法Ⅰ・Ⅱ　・教育社会学 ・異文化間教育学　・スポーツ心理学　・公衆衛生学　・家族社会学　・現代文化人類学 ・応用社会心理学
展開科目	・神経・生理心理学　・発達心理学　・教育・学校心理学　・組織心理学　・青年心理学 ・家族心理学　・臨床発達心理学　・福祉心理学　・コミュニティー心理学　・色彩心理学 ・環境心理学　・心理療法　・心理学的支援法　・健康・医療心理学　・人体の構造と機能及び疾病 ・ジェンダー心理学　・児童福祉論　・高齢者福祉論　・障害者福祉論　・教育哲学 ・ボランティア学習論　・プログラミング演習　・地域情報論　・生涯スポーツ論　・人間科学特別講義 ・法女性学　・市民社会論　・スポーツ文化　・スポーツ哲学　・ロールモデル論
総合演習	・人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ　・卒業研究

■モデルⅢ（スポーツ健康コース：スポーツ振興者志望モデル）

現代社会の構造や事象を「スポーツ」を切り口や材料として理解すること，またスポーツ実践者を科学的に支援するための基礎的発展的な知識を修得することにより，企業人・技術者としての資質を身につけることを目指すモデルです。スポーツ関連企業，レジャー関連産業領域をはじめとする一般企業はもとより，スポーツの普及振興にかかわる行政団体，NPO や財団法人といった公益団体などへの就職を目指します。

基礎科目	・人間科学概論　・人間形成論　・人間関係論　・健康学概論　・心理学概論 ・社会学概論　・社会福祉学概論　・人間科学基礎ゼミナール　・情報処理Ⅰ・Ⅱ

基幹科目	・ヒューマンマインド学　・スポーツ社会学　・統計と調査　・公衆衛生学　・スポーツマネジメント ・人体生理学　・身体計測と情報処理　・解剖学　・スポーツ心理学　・社会調査論Ⅰ・Ⅱ ・人口地理学　・現代社会論Ⅰ・Ⅱ　・現代社会心理学　・応用社会心理学　・現代社会論Ⅰ・Ⅱ ・社会統計学Ⅰ・Ⅱ
展開科目	・スポーツ哲学　・スポーツ文化　・生涯スポーツ論　・ロールモデル論　・スポーツ産業論 ・スポーツの行政と公共政策　・スポーツと経済　・健康システム管理学　・レジャーと産業 ・キャリア特別講義　・バイオメカニクス　・身体科学実験実習 ・身体運動の計算科学とシミュレーション　・実践英語　・地域社会学 ・社会調査法（含む実習）AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ　・国際社会論Ｂ　・組織心理学　・コミュニティー心理学
総合演習	・人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ　・卒業研究

※他学科専攻科目にあげた科目は，履修制限がある科目などもあるため，他学部学科，コースなどとも調整が必要である。

■モデルⅣ（スポーツ健康コース：企業のリーダー・スポーツ教育者養成モデル）

学生時代に培われたリーダーシップ，フォロアーシップ等，行動力を十分に活かし，企画・運営に携わり企業内においてもリーダーとして活躍することを目指す人のためのモデルです。また，地方自治体で警察官や消防士等の職業を選択しようとする人や，スポーツを指導する学校や社会教育関係の職業を目指す人のためのモデルでもあります。

※所定の教職に関する科目及び教科に関する単位を取得し，介護，教育実習等を経て，保健体育教諭の資格を取得することができます。

基礎科目	・人間科学概論　・人間形成論　・人間関係論　・健康学概論　・心理学概論　・教育学概論 ・社会学概論　・社会福祉学概論　・人間科学基礎ゼミナール　・情報処理Ⅰ・Ⅱ
基幹科目	・ヒューマンマインド学　・スポーツ社会学　・栄養管理学　・人体生理学　・解剖学　・公衆衛生学 ・スポーツ心理学　・スポーツマネジメント　・身体計測と情報処理　・統計と調査 ・ジェンダー研究　・教育社会学　・認知心理学　・現代社会心理学　・生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ ・教育人間学　・現代文化人類学　・人格心理学　・異文化間教育学
展開科目	・スポーツ哲学　・スポーツ文化　・ロールモデル論　・生涯スポーツ論　・救急法　・トレーナー実習 ・コーチング論　・コーチング心理学　・運動処方論　・保健体育専門教養Ⅰ・Ⅱ ・保健体育指導実践Ⅰ・Ⅱ　・スポーツ実技種目　・トレーニング実技　・野外実習 ・健康システム管理学　・スポーツ産業論　・スポーツの行政と公共政策　・スポーツ医学 ・バイオメカニクス　・学校保健　・実践英語　・身体運動の計算科学とシミュレーション ・児童心理学　・児童福祉論　・臨床発達心理学　・青年心理学　・健康心理学　・高齢社会論 ・教育哲学　・ボランティア学習論　・障害者福祉論　・高齢者福祉論　・地域福祉論　・地域社会学
総合演習	・人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ　・卒業研究

■モデルⅤ（人間社会コース：社会を幅広く探求するモデル）

人間社会についての理論や方法論を学び，その構造や諸課題について調査実習などを取り入れて幅広く学んでいくモデルです。所定の科目群を履修することで社会調査士資格も取得でき，他コースの科目も積極的に履修することで人間科学について総合的な理解を深めることが出来ます。このモデルでは，将来の調査研究職，福祉関係職などの育成を目指します。

基礎科目	・人間科学概論　・人間形成論　・（人間関係論）　・（健康学概論）　・（心理学概論）　・（教育学概論） ・社会学概論　・社会福祉学概論　・人間科学基礎ゼミナール　・情報処理Ⅰ・Ⅱ
基幹科目	・社会調査論Ⅰ・Ⅱ　・現代社会論Ⅰ・Ⅱ　・現代社会心理学　・家族社会学　・ジェンダー研究 ・社会統計学Ⅰ・Ⅱ　・生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ　・犯罪心理学　・教育社会学　・スポーツ心理学
展開科目	・横浜学Ⅰ・Ⅱ　・異文化社会論Ａ・Ｂ　・地域社会学　・市民社会論　・高齢社会論　・法女性学 ・地域情報論　・環境計画論　・コミュニティー心理学　・家族心理学　・青年心理学　・児童心理学 ・高齢者福祉論　・地域福祉論　・児童福祉論　・障害者福祉論　・ロールモデル論　・現代メディア論 ・国際社会論Ｂ　・形質人類学

関連科目	・地理学（含地誌）　・日本史概論Ⅰ・Ⅱ　・外国史概論Ⅰ・Ⅱ　・政治学入門 ・経済政策　・経済地理Ⅰ・Ⅱ
総合演習	・人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ　・卒業研究

■モデルⅥ（人間社会コース： 社会を専門的に探究するモデル）

専門的な「教科に関わる科目」を中心として横断的に学び, 学修の結果として免許取得も目指すモデルです。関連科目の積極的な履修により, 法学・政治学・経済学分野など隣接分野の専門性も高め, 公務員試験に向けた学修も出来ます。このモデルでは, 将来の教育職, 公務員行政職などの育成を目指します。

基礎科目	・人間科学概論　・（人間形成論）　・人間関係論　・（健康学概論）　・（心理学概論）　・（教育学概論） ・社会学概論　・社会福祉学概論　・人間科学基礎ゼミナール　・情報処理Ⅰ・Ⅱ
基幹科目	・社会調査論Ⅰ・Ⅱ・現代社会論Ⅰ・Ⅱ　・家族社会学　・国際社会論Ａ　・人口地理学　・景観地理学 ・データ分析法Ⅰ・Ⅱ　・社会統計学Ⅰ・Ⅱ　・スポーツ社会学 ・フィールドワーク入門Ⅰ・Ⅱ　・教育社会学　・都市空間と社会　・生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ ・現代文化人類学
展開科目	・横浜学Ⅰ・Ⅱ・地域社会学・地理情報システム　・環境社会論　・産業地理学　・現代メディア論 ・社会調査法（含む実習）ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ　・環境計画論　・地域防災論　・気象学 ・臨床発達心理学　・高齢者障害者福祉心理学　・高齢者福祉論　・地域福祉論　・高齢社会論 ・世界地誌　・組織心理学　・異文化社会論Ａ・Ｂ　・地域社会貢献論
関連科目	・人文地理学概論Ⅰ・Ⅱ　・自然地理学概論Ⅰ・Ⅱ　・日本史概論Ⅰ・Ⅱ　・外国史概論Ⅰ・Ⅱ ・憲法概説Ⅰ・Ⅱ　・民法概説　・刑法概説　・地誌学概論
総合演習	・人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ　・卒業研究

2020年度　人間科学部人間科学科　教育課程表（2020年度入学者から適用）

			1年次				2年次			
			1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専攻科目	基礎科目		人間科学概論 人間形成論 人間関係論 情報処理Ⅰ	○2 ×2 ×2 ○2	健康学概論 心理学概論 教育学概論 社会学概論 社会福祉学概論 人間科学基礎ゼミナール 情報処理Ⅱ	×2 ×2 ×2 ×2 ×2 ○2 ○2				
	基幹科目	心理発達			ライフデザインの心理学	2	心理学実験Ⅰ 知覚・認知心理学 生涯発達心理学Ⅰ 臨床心理学概論 心理学研究法 異文化間教育学 司法・犯罪心理学 応用社会心理学 感情・人格心理学 心理学統計法Ⅰ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	心理学実験Ⅱ 感覚知覚心理学 生涯発達心理学Ⅱ 心理的アセスメント 心理学研究法特別講義 学習・言語心理学 教育人間学 教育社会学 心理学統計法Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2
		スポーツ健康			スポーツ社会学	2	スポーツ実践Ⅰ 人体生理学 栄養管理学 ヒューマンマインド学 統計と調査	2 2 2 2 2	スポーツ実践Ⅱ スポーツ心理学 公衆衛生学 解剖学 スポーツマネジメント 身体計測と情報処理	2 2 2 2 2 2
		人間社会	社会調査論Ⅰ	2	社会調査論Ⅱ フィールドワーク入門Ⅰ	2 1	現代社会論Ⅰ ジェンダー研究 国際社会論A 人口地理学 データ分析法Ⅰ 社会統計学Ⅰ 家族社会学 都市空間と社会	2 2 2 2 2 2 2 2	現代社会論Ⅱ 現代社会心理学 景観地理学 データ分析法Ⅱ 社会統計学Ⅱ 現代文化人類学 フィールドワーク入門Ⅱ	2 2 2 2 2 2 1
	展開科目	心理発達	公認心理師の職責 人体の構造と機能及び疾病	2 2	精神疾患とその治療 関係行政論 発達心理学	2 2 2	環境心理学 教育・学校心理学 ボランティア学習論 心理演習Ⅰ	2 2 2 1	臨床発達心理学 心理学的支援法 健康・医療心理学 ジェンダー心理学 社会・集団・家族心理学 障害者・障害児心理学 心理演習Ⅱ	2 2 2 2 2 2 1
		スポーツ健康	スポーツ実技種目(球技①) スポーツ実技種目(球技②) スポーツ哲学 ライフアカデミックスキル	2 2 2 2	スポーツ実技種目(球技①) スポーツ実技種目(球技②)	2 2	スポーツ実技種目(器械運動) スポーツ実技種目(陸上競技) スポーツ実技種目(球技③) スポーツ実技種目(水泳) スポーツ実技種目(ダンス) スポーツ実技種目(武道) ロールモデル論 学校保健 スポーツ産業論 野外実習(サマー) 生涯スポーツ論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	救急法 スポーツ実技種目(器械運動) スポーツ実技種目(陸上競技) スポーツ実技種目(球技③) スポーツ実技種目(水泳) スポーツ実技種目(ダンス) スポーツ実技種目(武道) スポーツ医学 運動処方論 野外実習(ウィンター) バイオメカニクス	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
		人間社会					形質人類学 横浜学Ⅰ ◆横浜学Ⅱ	2 2 2	世界地誌 地域社会貢献論 環境社会論	2 2 2
			人間科学特別講義	2			プログラミング演習 児童福祉論 レジャーと産業	2 2 2	障害者福祉論 キャリア特別講義	2 2
	関連科目		日本史概論Ⅰ 外国史概論Ⅰ 人文地理学概論Ⅰ 自然地理学概論Ⅰ 経済地理Ⅰ 地理学(含地誌) 地誌学概論 憲法概説Ⅰ 民法概説 経済史Ⅰ 哲学概論Ⅰ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	日本史概論Ⅱ 外国史概論Ⅱ 人文地理学概論Ⅱ 自然地理学概論Ⅱ 経済地理Ⅱ 地理学(含地誌) 地誌学概論 憲法概説Ⅱ 刑法概説 政治学入門 経済史Ⅱ 哲学概論Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	日本経済史Ⅰ 西洋経済史Ⅰ 国際法Ⅰ 行政法Ⅰ 日本政治 比較政治学Ⅰ 国際政治学Ⅰ 世界経済論Ⅰ 経済政策 財政学Ⅰ 金融論	2 2 2 2 2 2 2 2 4 2 4	日本経済史Ⅱ 日本政治史 西洋経済史Ⅱ 国際法Ⅱ 行政法Ⅱ 比較政治学Ⅱ 国際政治学Ⅱ 世界経済論Ⅱ 経済政策 財政学Ⅱ 金融論	2 2 2 2 2 2 2 2 4 2 4
	総合演習						人間科学専門ゼミナールⅠ			○4

（学年は標準年次を示す）

3年次				4年次							卒業要件単位数
5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター					
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位				
								基礎科目		専攻科目	14
								心理発達	基幹科目		22
								スポーツ健康			
								人間社会			
家族心理学	2	色彩心理学	2					心理発達	展開科目		30
福祉心理学	2	被害者心理学	2								
神経・生理心理学	2	青年心理学	2								
コミュニティー心理学	2										
組織心理学	2										
教育哲学	2										
心理療法	2										
産業・組織心理学	2										
心理実習Ⅰ	1	心理実習Ⅱ	1								
スポーツ実践Ⅲ	2	スポーツ実践Ⅳ	2					スポーツ健康			
トレーニング実技	2	トレーナー実習	2								
		コーチング論	2								
スポーツの行政と公共政策	2	スポーツと経済	2								
保健体育専門教養Ⅰ	2	保健体育専門教養Ⅱ	2								
保健体育指導実践Ⅰ	2	保健体育指導実践Ⅱ	2	コーチング心理学	2						
		スポーツ文化	2								
身体科学実験実習	2	身体運動の計算科学とシミュレーション	2								
睡眠と生体リズム	2										
機能解剖学実習	2	健康システム管理論	2								
		実践英語	2								
地域社会学	2	高齢社会論	2					人間社会			16
異文化社会論B	2	異文化社会論A	2								
地域情報論	2	法女性学	2								
市民社会論	2	現代メディア論	2								
産業地理学	2	地域防災論	2								
環境計画論	2	地理情報システム論	2								
		気象学	2								
		国際社会論B	2								
社会調査法(含む実習)AⅠ	2	社会調査法(含む実習)AⅡ	2								
社会調査法(含む実習)BⅠ	2	社会調査法(含む実習)BⅡ	2								
高齢者福祉論	2	地域福祉論	2	外国語文献講読Ⅲ	2						
外国語文献講読Ⅰ	2	外国語文献講読Ⅱ	2								
ヨーロッパ政治	2	ヨーロッパ政治史	2					関連科目			
労働法Ⅰ	2	労働法Ⅱ	2								
地方自治論Ⅰ	2	地方自治論Ⅱ	2								
人間科学専門ゼミナールⅡ			○4	卒業研究			○4	総合演習			12

〔備考〕

1　○印は必修科目，×印は選択必修科目，◎印は新設科目，★印は学期変更科目，◆印は隔年開講で今年度休講の科目を示す。

〔履修要件〕

1　同一授業科目は，重複して履修することはできない。

2　科目によっては履修資格や人数が制限される場合があるので注意すること。

3　1年間の履修単位数は44単位以内とし，半期に履修登録できる単位数は30単位以内とする（通年科目を履修した場合は，その科目の単位数を二分割し，前学期・後学期のそれぞれの学期の単位数として換算する）。なお，卒業要件単位数に算入されない資格教育課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。

4　長期履修学生制度適用者が各セメスターにおいて履修登録できる単位数は，学期の違いにより14単位もしくは16単位以内とする。

〔コース制〕

1　2年次のコース登録期間内に「心理発達」,「スポーツ健康」,「人間社会」のいずれかを選択し，登録する。なお，未登録者については，自動的に心理発達コースの登録とする。

2　コースの変更を希望する者は，3年次当初または4年次当初に「コース変更」を申請し，人間科学部長の許可を得なければならない。なお，年度途中での変更は認めない。

〔学外単位認定制度〕

学則第13条及び第13条の2に基づく次の単位は，本学における授業科目の履修とみなし，卒業要件単位に算入することができる。なお，横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は，各セメスターの履修制限単位数に含める。

1　本学が主催または推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。

2　文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で，本学における所定の手続きにより認定された単位。

3　横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で，本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕

1　4年以上在学し，学則所定の次表の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

<table>
<tr><th rowspan="3">授業科目
入学年度</th><th colspan="8">共通教養科目</th><th rowspan="3">共通教養科目合計</th><th colspan="6">専攻科目</th><th rowspan="3">合計</th></tr>
<tr><th colspan="7">共通基盤科目</th><th>共通テーマ科目</th><th rowspan="2">基礎科目</th><th rowspan="2">基幹科目</th><th colspan="3"></th><th rowspan="2">総合演習</th><th rowspan="2">合計</th></tr>
<tr><th>初年次ゼミナール</th><th>外国語科目</th><th>教養基礎演習</th><th>人文の分野</th><th>社会の分野</th><th>自然の分野</th><th>人間形成の分野</th><th>現代社会と市民</th><th>展開科目</th><th>関連科目</th><th>展開・関連科目合計</th></tr>
<tr><td rowspan="2">2020年度
入学</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">8</td><td></td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>2</td><td>2</td><td rowspan="2">32</td><td rowspan="2">14</td><td rowspan="2">22</td><td>30</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">46</td><td rowspan="2">12</td><td rowspan="2">94</td><td rowspan="2">126</td></tr>
<tr><td colspan="7">6</td><td colspan="2">16</td></tr>
</table>

2　共通教養科目については、次の単位を含めて32単位以上修得すること。

(1) 初年次ゼミナール2単位（必修）。

(2) 外国語科目から英語を8単位以上。ただし，外国人留学生及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）は申請により，英語に換えて，4～6単位を日本語とすることができる。なお，8単位に不足する単位は英語で補うものとする。

(3) 人文・社会・自然の各分野からそれぞれ4単位以上。

(4) 人間形成の分野から「健康科学とスポーツⅠ・Ⅱ」の単位を含めて2単位以上。

(5) 共通テーマ科目から2単位以上。

(6) 教養基礎演習、人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から規定の単位数を超えて6単位以上。

3　専攻科目から次の内訳で94単位以上修得すること。

(1)基礎科目から次の単位を含めて，14単位以上。

①必修科目8単位。

②選択必修科目は，「人間形成論」,「人間関係論」のうち2単位以上，および「健康学概論」,「心理学概論」,「教育学概論」,「社会学概論」,「社会福祉学概論」のうち4単位以上，合計6単位以上。

(2)基幹科目から各コースにおける必修科目の単位を含め22単位以上修得すること。

「心理発達」コースの必修科目は，「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」,「心理学研究法」,「心理学研究法特別講義」とする。

「人間社会」コースの必修科目は，「社会調査論Ⅰ・Ⅱ」とする。

「スポーツ健康」コースの必修科目は，「ヒューマンマインド学」とする。

(3)展開科目及び関連科目から46単位以上。ただし，展開科目から30単位以上修得すること。

なお，次の単位は，関連科目の単位として算入できる。

①卒業要件単位数を超える共通教養科目，基礎科目，基幹科目，展開科目の単位。

②第二外国語および他学部・他学科開講の専攻科目。ただし，他学部・他学科が受講を認めていない科目については，履修することはできない。

③教職課程本登録者が修得した教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）」。ただし，10単位を上限とする。（教職課程仮登録者は算入できない）

(4)総合演習から「人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」、「卒業研究」の単位を含め12単位修得すること。

教育課程における標準年次の区切線について

①　標準年次が実線（――――）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できません。

②　標準年次が破線（……）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できますが，［履修要件］等にしたがって履修できない授業科目もありえますので注意してください。